

日本テトラパック つづきの丘小学校で出張授業

再生可能資源99%使用の新容器学乳提供

日本テトラパックは11月末に、神奈川県・横浜市立つづきの丘小学校で、SDGsを考える出張授業「テトラパックこども未来プログラム」を開催。4年生の2クラス、各20名前後の児童が参加した。

日本テトラパックでは、子どもたちに身近な紙パックから、SDGsやリサイクルについて学ぶ機会を提供するため、教育プログラムなどの啓発活動を展開している。

今回の出張授業では、モニターを活用し、「地球のためにできること」「牛乳パックで考えてみよう!」をテーマとした授業を展開し、同小学校の給食で提供



マーケティング部
鈴木陽子マーケティングマネージャー



コミュニケーション部
毛受 彩マネージャー

されている牛乳用紙パックを通じて、環境に配慮した紙容器の環境優位性やリサイクルの重要性について学び、きっかけを提供した。日本テトラパックマーケ

ティング部の鈴木陽子マーケティングマネージャーは「地球温暖化ってなんだろう?」と問いかけ、化石燃料をやすことで二酸化炭素が排出され、地球温暖化

につながら、地球環境へ影響をおよぼしていることを説明。また、世界の二酸化炭素の排出量が1950年以降、急激に増加していることを伝える

と、児童からは驚きの声があがった。続いて「つづきの丘小学校の給食で提供されているタカナシ乳業の牛乳パックが変わったことを知っている?」との問いかけに対し、生徒からは「知ってる!新しいマーク

がついた!」と多くの手があがった。タカナシ乳業は今秋から、学校給食牛乳用に使っているテトラ・ブリック容器のコーティングに植物由来ポリエチレンを使用した新包材に変更。児童には新・旧の包材が配られ、興味深そうに観察する姿がみられた。

鈴木氏はテトラ・ブリック容器について「テトラ・ブリック容器は、プラスチック(ポリエチレン)、紙、プラスチック(ポリエチレ

ン)という3層構造となっ

ており、中身の牛乳を守っている。大切なことは、紙の原材料となる木を適正に使うこと。切り出された木材の太い部分などはおうちの柱などに使われるのに対し、枝や細い木がテトラ・



4年1組の授業風景

ン)という3層構造となっ

ており、中身の牛乳を守っている。大切なことは、紙の原材料となる木を適正に使うこと。切り出された木材の太い部分などはおうちの柱などに使われるのに対し、枝や細い木がテトラ・

ブリックの材料に使われて

いる。もう一つは、木を使っ

たら新しく木を植えて育てることが重要。植物は光合



4年1組の集合写真

トラパックの容器はつくられている」と説明。

新しくなった牛乳容器

は、容器のコーティングに使われているプラスチックを、石油由来からサトウキビ由来のものに変更。新パッケージには、「FSC

®マーク」に

加え、持続可能なサトウキ

ビの生産をサ

紙パックを通じて地球のためにできること

する。これを聞いた児童からは「凄すぎる！」など感嘆の言葉が挙がった。

続いて、コミュニケーション部の毛受彩マナー

ジャガーがテトラパックのリサイクルの取り組みを紹介。「テトラパックのベル

木氏によって、ガラス瓶、

ペットボトル、紙パックの

二酸化炭素の排出量を比較

し、紙パックが最も二酸化

炭素の排出量が少ないという結果が示され、「原材料から製造、輸送、消費、リサイクルまで、すべての工

るだけリサイクルしようと

思う」といった感想が聞か

れた。このほか「今日の授

業で聞いた内容を家の人やまわりの人にも話をして知ってもらい、みんなが地球温暖化対策に取り組むようなことをしていきたい」

意味のあるマークを少しづつでも知っていつてもらえたら嬉しい」と締めくくった。

田淵恵子校長は今回の出張授業に対し「本校は今年度、食育推進校となった。企業による出張授業には2

つの意義があ

ると思う。一

つ目は、生活

の中で身近な

もの(牛乳紙パック)でも、

SDGsに貢献できることに

子供たちが気づくきっかけがもたらえた。いつもの生

活の中で自分たちができる

SDGsだという気づきが出

てきた。二つ目は、本物

との出会い。SDGsに取

り組んでいる企業の方から

直接話をいただくことで、子ど

もたちも自分事

なんだという切

実感がもてる。

企業の方に直接

授業をしていた

だくので、疑問

に対してすぐに

に反応してもら

える。SDGs

に取り組んでい

る企業の思いを

直接感じること

がとても大切だ

ポットしていることを表す「ボンスクロマーク」が記されている。これにより、新テトラ・ブリックは99%再生可能資源由来となり、石油由来プラスチックの削減量は年間1100トン、重さをアフリカ象に置き換えると約183頭分に相当

マーク運動では、紙パックを開いて、洗って、乾かして、専用の回収ボックスに入れて送ると、紙パックの重さに応じてベルマークの点数がもらえる。みなさんの毎日のリサイクル活動が環境保全につながっている」と語った。その後、鈴

程に地球を守る取り組みがある。再生可能資源をたくさん使っている容器ほど地球にやさしい」と続けた。授業を受けた児童からは、「これからも紙パックを開いて、しっかり洗ってリサイクルに出す」「リサイクルできるものは、でき

など、地球温暖化や二酸化炭素の排出を減らすことに対して積極的な意見が挙がった。鈴木氏は「容器に、サトウキビマークを付けているのは大切なこと。FSC®マークもついている意味は大きい。森林、動物を守る、



4年2組の授業風景



4年2組の集合写真

と考えている」とコメントした。

日本テトラパックでは、今後も新包材の給食牛乳を導入した小学校での出張授業を積極的に行っていく方針。また身近な牛乳パックや紙パックを通じて

楽しく環境やSDGsについて学ぶための特設サイト「紙パックとりサイクル、環境について学ぼう！」(<https://schoolmilk-project.com/>)のコンテンツの充実も図っていく。